

あなたの声をお寄せください

ご意見、ご感想、ご要望など「あなたの声」をお寄せください。

皆様から頂戴したご意見等は、ご本人様のご了承を得た上で、内容に応じてご紹介させていただきます。

避難警報

北朝鮮による、ミサイル発射に伴う「避難警報」が二度にわたって発令された。

ミサイル発射から僅か十数分後には、北海道上空を通過し太平洋上に落下した。

市民は一体どこに避難すればよいのか？

国や市町村では強固な建物や地下室への避難を呼びかけていたことから、8月29日の1回目の避難警報発令時に、「家族4人で地下のある市役所や公会堂に避難したかったのですが、中に入らず、困りました。」との報道

家畜糞尿の有効利用で 農業経費の削減を

三沢市の農業は、昨年天気が悪く収穫が少なく、価格が安いなど、近年になく減収になった方もあるようで、特に人参、ジャガイモなどが悪く、ニンニクは安定していたようです。

一方、日本は肥料が高価で諸外国と比較すれば2倍にもなるといわれています。理由としては、農協は独占禁止法が適用されないことから競争の原理が働かないことや農家は生産に追われ、肥料や農薬、資材等の購入する場合農協以外の仕入れ先を取捨選択することが中々出来ないことあるようです。

平和的解決を望むことは勿論であるが、万が一の事態を想定し、一人でも多く市民の安全確保が図られる事を望んでいます。

(三沢市 心配性の一市民)



このような中、自民党の次世代のリーダー候補である、小泉進次郎



郎代議士が、自民党農業部会長の時の国会質問で「なぜ日本の肥料が高いのか」とこれまであまり国会で取り上げられなかった事案を質問したそうであり今後に期待したいところである。

今、農業の世界もグローバルの時代であり、スーパーには世界中の農産物が並んでいる。安全性の問題があるかもしれないが、輸送費をかけても相当の差があり、このままでは日本の農業は生き残れないのではないか。

種市一正市長は、全農をはじめ多く要職を務められ、農業政策に造詣が深いと聞かざひ三沢市の農業のために思い切った施策を実行してもらいたい。

一つには、三沢市には大量の畜産物の糞尿がある。これらを使って肥料を少なくできないだろうか。高い肥料が売れなくなれば農協は困ると思うが、農協は農家のための組合で

あり、経費が少なくなり農家がもうかれれば、組合の本来の目的にかなうと思う。

(三沢市 WT)

重ちゃん市長誕生！

あつという間に、西(とり)から戌(いぬ)に代わってしまった。時の速さを感じる。

世界では、予測のつかない気象の変動、世界戦争を巻き起こしかねない米国と北朝鮮、日本企業のコンプライアンスの違反などなど心配事が絶えない。過去60年間のいぬ年で大きな事件が発生しているのに十分注意が必要だ。

さて、忘年会から新年会と飲み会が続く。昨今の話題は、現市長を応援した人たちは政治が三沢のためになっ

てない、『市の職員にもやる気を感じない』など行政の停滞を非常に心配し、『これじゃだめだ』と今頃気が付いている。

◆ 何とか、鈴木重正を市長にして、三沢の停滞・後退を止めなければならぬ。でなければ、三沢はだめになる。

過去にとらわれない丸裸で腹の座った政策を示し、市民の共感を得て、市民に親しまれる重ちゃん市長に押し上げたい。

三沢のためにも、がんばれ重正！
(三沢市 しげまさ応援団)



あなたの声をお寄せください

FAX : 0176-58-7355

ホームページ
<http://www.suzukishigemasa.com/>
(討議資料)

鈴木しげまさ通信

新しい年を迎えて

明けましておめでとございます。皆様には新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より温かいご

支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。新しい年を迎え、初心に立ち返り、志を持って頑張ってください。本年が皆様一人

ひとりととって、たくさんの方々が訪れる一年でありますように願っております。

◆ 十年ひと昔と言いますが、愛するふるさと三沢を、次代を担う子供たちや孫たちにしっかりと引き継いでいかなければならないという強い想いを持って政治の道を志して、市議会議員選挙に立候補、皆様のお力により初当選させて頂いたのが十年前の平成20年でした。

◆ この十年間で私たちが暮らす三沢市も変わりました。

市内各所で進む道路整備。航空機騒音等によって生活環境に強い影響を受けていた五川目地区、天ヶ森・砂森地区の集団移転の完了。老朽化した市立病院の移転新築・がんの早期診断につながるPET-CT施設の整備。子育て

てを支援する、地産地消でわんぱく家族米の支給。東日本大震災の甚大な被害からの早期復旧。自主防災組織の組織率向上、小中学校を始めとする各施設の耐震化。十和田市と三沢市が中心市となって、新たな広域連携である「上十三・十和田湖広域定住自立圏」の形成。地域産業の振興を目指して、「新産業創造支援センター」の整備。中学生までの子ども医療費の完全無料化。定住促進、地域の活性化を図るために住宅取得支援事業助成金が創設。プロスポーツの公式戦も開催可能な、災害時の避難所機能も有している国際交流スポーツセンターの新設。その他にもたくさんあるでしょう。そして、新たに「子ども館」の建設。三沢駅周辺整備なども進んでいます。

◆ 一方で、4万3000人あった市の人口は3千人余りも減少して4万人に、20%を切っていた高齢化率も約24

%と上昇しています。残念ながら、市内のあちこちで空き家や高齢者の一人暮らしが目立つようになりました。人口減少・少子高齢化は、日本全体の問題であり、今後とも確実に進んでいき、地域社会や住民生活により大きな影響を及ぼしていきます。また、昨年度衆議院小選挙区の区割りが見直されて三沢市を含む旧2区が分断されたことによって、今後地域間の連携に影響が出てくる可能性もあると考えています。次なる十年は、これまで

以上に相当の覚悟と責任を持って、将来に持続可能なまちづくりをしつかりと進めていかなければならない十年となるでしょう。

◆ 私自身、政治の道を志したときの想いは変わることなく、新年を迎えて、むしろ強い想いとなつています。愛するふるさとのため、そこに暮らす人たちの幸せのために、これからも全力で頑張ってください。皆様、本年もよろしくお願ひ申し上げます。

『渡辺和子著』

「置かれた場所で咲きなさい」より
置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです。

どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。

◆ どんなどころに置かれても花を咲かせる心を持ち続けよう。

未来への挑戦 そして責任



しげまさ日記

スポーツで元気に！

国際交流スポーツセンター

平成29年10月1日、三沢市では二つ目となる体育館、国際交流スポーツセンターの落成記念式典が行われました。同センターは、設計・工事費約45億4千万円、防衛省の補助金を活用して、市内南山地区に建設されました。

延べ床面積は約9500平方メートル、メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室などがあり、メインアリーナは1、2階で約1800人の観客を収容でき、バスケットボールやバレーボールなど各種公式戦が開催可能な規格となっています。



まず、式典終了後は、オーブンリーグイベントとして、バレーボール女子Vリーグエキシビションマッチ、三沢市出身の大野果奈選手が所属するNECレッドロケッツVストヨタ車体クイーンズズ戦が行われました。

初めて一流の試合を観戦しましたが、その迫力、スピード、パワー、技術に圧倒されました。

その後も、バスケットボール男子Bリーグ・女子Wリーグ、バレーボール男子Vチャレンジャーリーグの公式戦が開催されていますが、一流のプレーを身近に見る機会があるということ、直接見ることで、きるといえることは本当に素晴らしいことだと思います。

衆議院選挙

平成29年9月、にわかに解散風なるものが吹いてきたと思ったら、国難を突破するために信を問うとして9月28日午後、衆議院が解散されて、「10月10日公示、22日投票」の第48回衆議院議員選挙に突入しました。

これまで青森県は4小選挙区でしたが、今回の選挙から区割り見直しで定数が1減となり3小選挙区へと。江渡聡徳代議士を選出した三沢市を含むこれまで2区のうち上北郡が分断されて、六ヶ所村、野辺地町、横浜町が青森市を中心とした新1区に、十和田市、三沢市などは八戸市を中心とした新2区に変

地域と共に！

更となりました。1票の格差による定数削減とはいえ、人口数のみで地方の議席を削減していくことは地方の衰退につながるという点については明白であり、この点について今後しっかりと議論が進んでいくことを期待します。

総選挙の結果は、皆さんご承知のとおり、自民党が284議席、公明党は29議席、衆議院定数の三分の二を超える合わせて313議席を獲得しました。青森県内においても皆さんのお力によって、新1区の津島淳氏、私たちが応援した新2区の大島理森氏、新3区の木村次郎氏、そして東北ブロック比例代表の江渡聡徳氏と我が自民党が議席を独占することができました。

選挙戦では、11期、30年以上の議員生活で文部相、農林水産相や自民党副総裁、幹事長などの要職を歴任して衆議院解散まで議長を務められていた大島理森氏が、「今と明日に



責任を持つことこそが政治姿勢の根源になればならない」、「初心に帰って愚直に政治に取り組みたい」と訴えていたことが特に印象深いです。

政治家は、志を持った初心を決して忘れることなく、今だけ自分たちだけ良ければいいということではなく、現在と未来にしっかりと責任を持っていかねばならないということを改めて胸に刻みました！

命の授業

本通信で紹介した腰塚勇人先生の「命の授業」が三沢青年会議所の主催により三沢市内で開催されました。三沢青年会議所の出前講座として、10月23日に三沢市立木崎野小学校翌24日に三沢市立第一中学校で行われる計画でしたが、23日は台風の影響で市内の小中学校が休校となり、残念ながら木崎野小学校での授業は中止となってしまいました。

23日の夜は、三沢青年会議所10月例会として、「命の授業」ドリー

夢メーカーと今を生きる」をテーマとした講演会が行われ、青年会議所会員の皆さんの他、三沢市教育長を始め教育関係者やPTA関係者が腰塚先生の実体験に基づいた言葉に聞き入っていました。

翌24日は、三沢市立第一中学校の全校生徒約300人に「命の授業」を、「自分の命や友だちの命を傷つけないでほしい。命を喜ばせる生き方をして」と語りかけ、「ドリー夢メーカー」や「5つの誓い」を伝えました。授業を受けた生徒さんたちは、何を感じて、

何を思ったでしょうか？「命の授業」を聴いても何も変わらないか



も知れません。でも、「命の授業」を聴いて救われる命があるかも知れません、傷つかなくてもよい心があるかも知れません。三沢市でもより多くの子どもたち、親・大人たちに聴いてほしいと思います。大変貴重な機会をつくってくれた三沢青年会議所の皆さん、本当にありがとうございます。

ポリリウム会？

11月4日、青森ポリリウム会（来海伸博会長）の創立50周年を祝う記念式典に三沢ポリリウム会会長として出席しました。激動の1960年代、自衛隊を取り巻く環境が厳しく辛い状況にある中、「国家を護るのは自衛隊しかない」との思いを持った有志により昭和42年、青森ポリリウム会が創設されたそうです。

以来、「一、日本民族自衛の心構えに徹する、一、自衛隊を理解し、その強化に寄与す

る、一、平和社会に感謝し、奉仕に努める、一、心身を鍛錬し、広く知識をもとめる、一、自己の責任を果たし、共栄向上を期す」の五つの綱領を元に、自衛隊と同じ制服を着用して正々堂々とまちを歩き、国防の重要性、自衛隊の必要性についてねばり強く地域社会に訴え続けています。そして、青森ポリリウム会の発足から時を経て、むつ、三沢においてもポリリウム会が発足して同様の活動を行っています。



国防の重要性を力強く発信していくために、身長175cm以上、体重75kg以上、社会的にもポリリウムのある人物で構成するという条件で「ポリリウム会」と命名されたそうです。現在は身体的ポリリウムよりの精神的ポリリウムを重視しています。

◆

三沢ポリリウム会の会長を拝命してから2年になりますが、精神的ポリリウムを高めるためより一層努力をし、自衛隊の応援団体として、歴史と伝統を守っていくとともに時代の流れにに応じたより良い関係を構築していきたい、これからも、我が国の平和と独立を守るとい

う崇高な任務を遂行する自衛隊、自衛隊員の皆さんを応援していきたいと思

三沢のあれこれ

児童生徒数は？

小学校2303人、中学校1191人（平成28年5月1日）
平成23年と比べると、小学校で312人、中学校で251人減っています。

事業所・従業員数は？

事業所数1910件、従業員数1万9810人（平成26年7月1日）
平成21年と比べると、事業所数で168件、従業員数で693人減っています。

ごみの排出量は？

1人1日当たり1127g、リサイクル率8.8%（平成27年度）
青森県内40市町村の中で、排出量はワースト5位、リサイクル率はワースト7位と、ごみに対する意識が低いようです。

市民所得は？

総人口1人当たりの所得は、245万8千円（平成26年度）
青森県では、240万5千円。県内十市の中で三沢市は、八戸市、青森市に次いで第3位です。